

- ▶ 丹波市では、人工林が高齢級化し、本来では収穫期である齢級が大半を占める中、手入れ不足が顕著となってきた。手入れ不足により、今後の木材利用が見込めない森林については、公益的機能の発揮が期待できる広葉樹への転換ニーズが高まってきた。しかし、条件不利地においては、地表の下層植生が乏しい状態であることから面的に伐採することで、山肌に直接雨粒が降り注ぐことになり、表土流出の危険性もあるため、環境機能増進伐（35%～50%の強度間伐）を行い、植栽をすることで広葉樹林への転換を図っていく方針。
- ▶ 令和3年度においては、以下のとおり未整備であった市内森林において、環境機能増進伐及び作業道の開設を行い、下層植生の生育を推進し令和4年度の植栽や防護柵の設置に向け整備を行った。

□ 事業内容

1 未整備林広葉樹転換促進事業の実施

過去に経営計画が策定されていない森林を対象に、環境機能増進伐や森林作業道の開設及び植栽や防護柵の設置を対象とした支援を実施。

【事業費】3,281千円（全額譲与税）

【実績】環境機能増進伐面積 1.49ha 森林作業道：325m

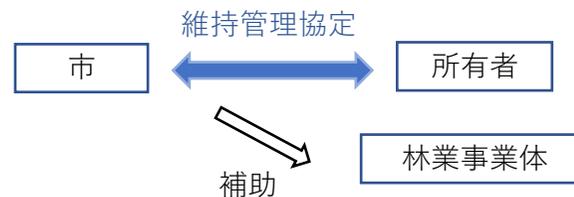


（事業1：環境機能増進伐前の状況）



（事業1：環境機能増進伐後の状況）

□ 事業スキーム



□ 工夫・留意した点

- 森林GISを活用し、森林経営計画策定地をデータ（レイヤ）で管理することで、対象事業地の確認を行っている。

◇ 基礎データ

①令和3年度譲与額	74,207千円
②私有林人工林面積（※1）	18,413ha
③林野率（※2）	75.3%
④人口（※3）	65千人
⑤林業就業者数（※4）	105人

※1、2：「2020農林業センサス」より、※3：「R2国勢調査」より、

※4：「H27年国勢調査」より